

記念すべきリサイタルのライブ録音——百瀬 喬

●サントリーホールでの中村紘子さんのリサイタルと、このCDに関して

1993年6月1日、東京・サントリーホールにてわが国を代表する国際的アーティスト、中村紘子さんによる、〈アルトゥール・ルービンシュタイン・ゴールド・メダル〉受賞記念リサイタルが行なわれた（同じプログラムで彼女は、5月23日に大阪のザ・シンフォニーホールでもリサイタルを行なっている）。会場には彼女のファンを初めとして、内外の文化人や財界人も集いて、あのサントリーホールでさえ手狭に感じたほどである。

ところで、彼女が受賞されたゴールド・メダルには、巨匠ルービンシュタインを、彼の友人ピカソが描いたスケッチが刻印されている。これは巨匠がイスラエルで3年毎に開催されている《アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノ・コンクール》の初代名誉会長に就任した際に、同コンクールの基金造成のために、このスケッチ使用に関する権利を同委員会に与えた結果に基づいて限定刻印されたメダルで、このコンクールに貢献した真の芸術家のみに授与されてきた。今回受賞された中村紘子さん以前には、リヒテル、ベネデッティ＝ミケランジェリ、バレンボイム、ツィメルマン、シェリング、ポリーニ、アシュケナージ、シフの8名のみで、その錚々たる顔ぶれを見ても、この授賞がいかに名誉なるものかがお解かりいただだけよう。

この〈ルービンシュタイン・ゴールド・メダル受賞記念リサイタル〉で彼女が演奏したのは、ベートーヴェンの「熱情」ソナタ（へ短調作品57）をプログラムの最初において、シューマンの幻想小曲集（作品12）、ドビュッシーの「レントよりおそく」と組曲「ピアノのために」よりプレリュード、そしてショパンのピアノ曲より、エチュードホ短調（作品25-5）、同嬰ハ短調（作品10-4）、ノククーン嬰へ長調（作品15-2）と小品を3曲並べて、プログラムの最後はあの輝かしい「英雄」ポロネーズ（イ長調作品53）で締めくくった。ルービンシュタインの熱烈なるファンだったらお気づきかもしれないが、これは、1975年1月15日にカリフォルニアのアンバサダー・カレッジで行なわれた巨匠のリサイタルからのライブ録音としてRCAから発売されているCD『アルトゥール・ルービンシュタイン、ザ・ラスト・リサイタル・フォー・イスラエル（BVCC-137）』に収録されている内容とまったく同じプログラムである。

中村紘子さんのルービンシュタインへの愛と尊敬の念が、そしてルービンシュタイン協会への感謝の気持ちが、かつてこの巨匠がエルサレムの青少年国際文化センター支援を目的に行なったリサイタルとほとんど同じプログラムを選択させたのであろう。

で、このCDには、中村紘子さんによる6月1日のサントリーホールでのリサイタルのライブ録音から、ショパンの練習曲嬰ハ短調作品10-4と「英雄」ポロネーズを除いた、残りの全てが収録されている。この2曲が割愛されたのは、CDの収録可能時間の限度を越してしまうこと、そして「英雄」ポロネーズがそこに選ばれたのは、この少し前の録音にこの作品が収録されているという単純なる理由だそうだ。（後略）